

1. ため池ハザードマップについて

- このハザードマップは、ため池が大雨、地震により決壊した場合に想定される浸水状況及び避難場所などを示しており、満水位の状態にあるため池が決壊し、ため池内の貯水量が全て下流に流出した場合に想定される状況を、シミュレーションにより求めたものです。
- 指定緊急避難場所、指定避難所、避難方向などを表示していますが、時間が無い場合は、周辺の高台を目指して避難してください。
- 実際の浸水状況は、この想定と異なることがあります。地図に示した範囲外でも津波などにより浸水することがありますので、避難に際しては最新の情報に基づき行動してください。ため池が決壊するおそれのある場合は、ため池及び河川に近づかないようにしてください。

2. ため池ハザードマップの使い方は？

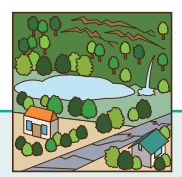
1

このハザードマップで
ご自宅の場所を確認しましょう。



2

次に、ため池の場所を
確認しましょう。



3

ため池が決壊による「浸水範囲」と
「浸水深」を確認しましょう。



4

ご自宅が浸水する可能性があるか
どうか、考えましょう。

浸水範囲に入らなくても、
浸水の可能性があるため注意しましょう。

5

ご自宅が浸水する場合、
指定緊急避難場所（緊急的に命の安全を確保で
きる場所）への避難ルートを考えましょう。

ため池が決壊したら、早い場所では数分で決壊流が到
達する可能性があります。
できるだけ早く、かつ安全なルートを選ぶ必要があります。
まずは命を守ることを最優先に考えましょう。

また、地震後は市の様相が変化します。家屋の倒壊、
電柱や塀の倒壊、火災の危険なども想像しておくこと
が大切です。



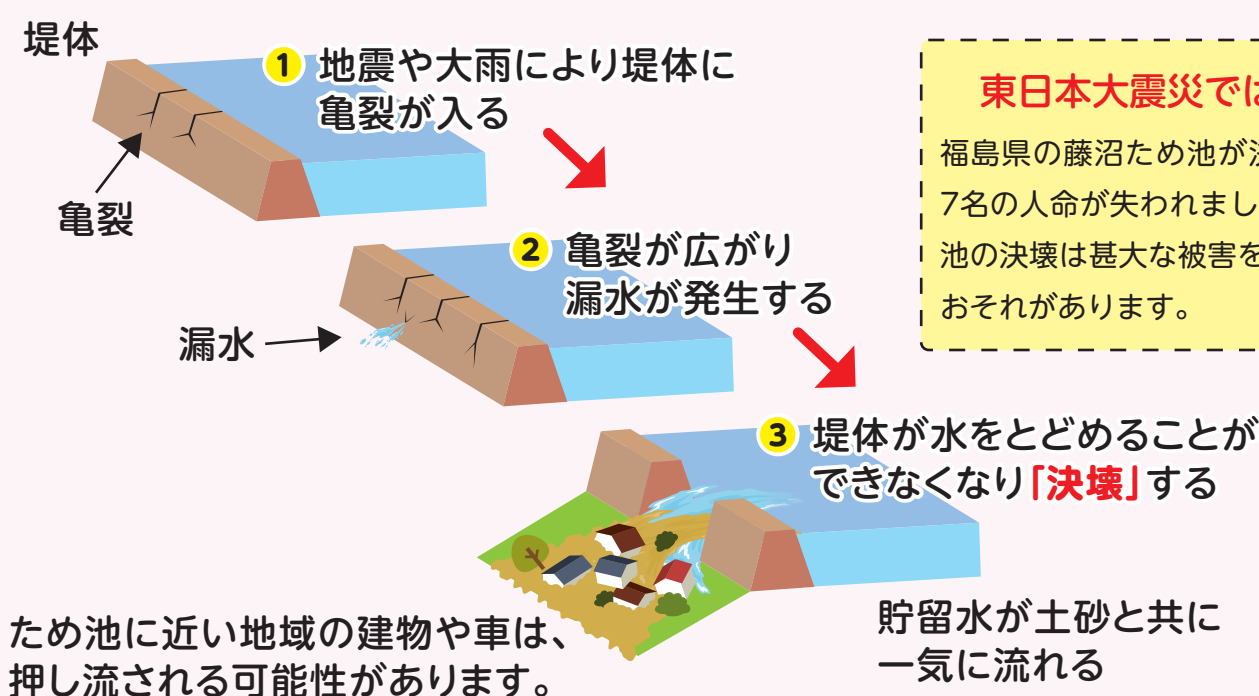
6

指定緊急避難場所から、
指定避難所（避難所生活が送れる場所）への
ルートも考えておきましょう。

3. ため池決壊の主な原因とメカニズム

ため池の決壊は主に大雨と地震によって引き起こされます。
決壊の原因とそのメカニズムを知って、災害時に備えましょう。

ため池決壊のメカニズム



東日本大震災では…
福島県の藤沼ため池が決壊し、
7名の人命が失われました。
池の決壊は甚大な被害をまねく
おそれがあります。

- 大きな地震や大雨によって、万が一にもため池の堤体が決壊した場合、一度にたくさんの水や土砂が下流に向けて流れ出します。
- ため池に近い場所では、水の流れが早く、押し流す力も強いいため、建物や車でさえも流される可能性があります。
- 水の流れが毎秒1メートルを超えると、50cmの水深でも立っていることができません。速やかに避難しましょう。

ため池の決壊は

予測が困難なため、
避難情報が間に合わない
おそれがあります。

早めの避難を
心がけましょう！

名護市WEB版ハザードマップ

名護市WEB版ハザードマップでは、パソコン・スマートフォン上で名護市内の災害に関する危険想定箇所や、避難施設の詳細情報をご覧いただけます。
下記URL、または右記のQRコードよりアクセスしてご利用ください。
<http://www.city.nago.okinawa.jp/kurashi/2018071900592/>

QRコード



※QRコードは
（株）デンソーウェブの登録商標です。

4. 避難を知ろう

大雨

大雨でため池の水位が急激に上昇し、堤体に浸透して強度が低下したり、堤体を越えた水によって侵食されて、決壊が発生します。

大雨時のみなさんの行動

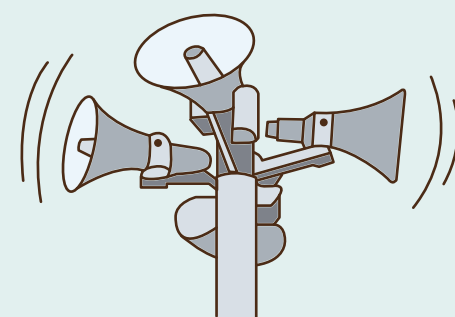
1:情報の収集

テレビやラジオなどの気象情報などをこまめにチェックしましょう。
気象庁から、注意報・警報などが発表されます。



2:身の危険を感じたら

市からの避難情報があったり、身の危険を感じたら、すみやかに動きやすく安全な服装での避難を始めましょう。



地震

大規模な地震で堤体が損傷を受け、亀裂が入り浸水が起こることで、強度が低下し、水をとどめることができなくなり、決壊が発生します。

地震時のみなさんの行動

1:まずは命の安全を！

地震が起きたら、まず身の安全を確保してください。



2:二次被害の防止(可能であれば)

火元を確認し、消してください。
可能であれば、電気のブレーカーを落とし、ガスの元栓をしめてください。
外に出る時は歩きやすい靴を履くようにしましょう。



避難をはじめましょう！

避難時の注意点

避難路は様々な危険が想定されます。

臨機応変に危険を避け、橋は極力渡らないように指定緊急避難場所を目指してください。
特に夜間は足元が暗く危険です。懐中電灯などを用意しましょう。

大雨の際は段差や水路・マンホールなどに十分注意しながら歩きましょう。
すでに浸水が始まっている場合などは無理せず自宅などの高い場所で救援を待ちましょう。

大雨や地震の時には津波や土砂災害などのため池の決壊以外の災害が発生している可能性があります。
他の災害にも十分注意を払いましょう。

まずは自分の命を守り、可能であれば近所の方や、一人暮らしのお年寄りなど、助けの必要な方にも声をかけて避難しましょう。



安否情報の確認 — 災害用伝言ダイヤル171 —

「171」をダイヤルし、ガイダンスにしたがって伝言の録音・再生をしてください。

1 7 1
171番にダイヤル

伝言を録音する場合

1 ▶ (〇〇〇〇) □□-□□□□ ▶ 伝言を吹き込む

被災地の人は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の人の番号を市外局番から入力。

2 ▶ (〇〇〇〇) □□-□□□□ ▶ 伝言を聞く

伝言を再生する場合